

平成21年度 森プロ事業実績：福岡柏原里山整備プロジェクト

(平成22年3月末現在)

	H20年度	H21年度				5カ年 計画	
	実績	計画	実績	達成率	備考		
集約化(ha)	—	80	50	63%		408	
作業道(m)	—	3,710	3,920	106%	作業路含む	15,628	
間伐等	面積(ha)	—	36	11	31%	利用+切捨	329
	材積(m ³)	—	1,260	1,017	81%	支障木含む	11,600
備考	団地外実績(利用間伐:4ha 搬出材積:377m ³ 作業路開設619m)						

H21年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む) 4,330円/m³

施業集約化の状況

- 境界明確化促進事業を活用し、森林境界測量を334ha実施した。森林所有者への戸別訪問により、集約化を進めている。

施業プランの活用状況

- まだ、作成に至っていない。

施業プランナーの養成状況

- 施業プランナー:2名(H20実績)
- H22は1名養成予定

作業道の状況

- 林内路網密度は、効率的に集材できる距離(集材距離25m)を考え、約150/haを目標とした。
- 幹線(トラック道 幅員3.6m)を外部委託により2,023m、支線(クローラ道 幅員2.4m~3.0m)を1,897m開設。
- 当初は、知識、技術が未熟で、必要以上に高密になったり、ヘアピンカーブがスイッチバックになるなど反省点もあったが、研修や評価を受ける中で、改善するよう努力している。

作業道開設



作業道開設後

- 初めて開設した作業路。ヘアピンカーブで計画したが、結果、スイッチバックになってしまった。

作業道開設後



- 作業路(幅員3.0m)を開設し、クローラダンプで搬出。森林所有者が軽トラックで山に入れるよう、一部、路盤工(碎石)を施工した。

作業システムの状況

- ・平成21年度の素材生産性: 3.49m³/人・日
- ・これまでの造材はチェーンソーであったが、生産性の向上、労働強度の軽減を目的として、プロセッサを使用。
(メインシステム: チェンソー(伐倒)→グラブプル(集材)→プロセッサ(造材)→フォワーダ(運搬)→グラブプル(積込等)→8tトラック(運搬) (ハーベスタ)

造材工程



集材工程



その他

- ・団地内に中間土場を整備して運搬コスト縮減に努めるため、B材の直送を試みた。(林業生産流通革新的取組支援事業を活用)
- ・中間土場を県道付近に設置したことにより、副次的な効果として、出材した材を地元住民が目にするることによって、利用間伐への関心が高まった。
- ・近年、組合員を対象に座談会を開催しても、山への関心がなくなっていることもあり、参加者が少なかったため、地区内での会合の場を借りて、プロジェクトの説明を行った。このことで、森林所有者以外の方へプロジェクトの趣旨を知ってもらうことができ、地元の理解を得ることにつながった。この成果は、他地域でも同様であると考え、組合管内で行っていくこととした。

地区の会合(柏原地)



地区の会合(新田地)



森プロの成果

- ・森プロへの取組を契機に編成した機械化チームが、他地区の先進地や各種研修に参加することで、森林技術者の知識、技術のレベルアップが図れた。
- ・森林境界の明確化が計画以上の334ha実施できたことで、団地内の森林整備計画のための基礎が整った。

今後の課題

- ・補助金が有利に活用できた事で所有者への還元が出来たが、一層の合理化、技術向上により所有者への還元を図る。
- ・森プロの取り組み成果について、中津川市林業委員会等、広く普及啓発していく。